

科目	動物福祉・倫理		
担当講師 本田 公三 実務経験有 獣医師免許 大学卒業後地方自治体において動物園、公衆衛生分野に勤務			
開講年次	授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護、動物管理学科 1年次前期	講義	必修	30
授業目標 生命倫理を基本に人と動物が共存するために必要なものは何かを理解する。 授業概要 動物の権利、福祉の理念、保護・福祉制度の歴史を学び、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物、伴侶動物を対象に福祉の問題点をさぐる。			
成績評価の方法 評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が3分の2以上であることが必要。試験は80～100点がA評価、70～79がB評価、60～69までをC評価とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし評価はCとなる。			
教材 動物看護コアテキスト1巻 人と動物の関係 (P30～69 ファームプレス)、 動物看護学(総論) 日本動物看護学会編 (インターズー)、動物看護学全書動物看護学総論 (日本獣医師会) 小動物獣医看護学小動物看護の基本と実践ガイド (インターズー)、動物看護の教科書1巻 (緑書房) アニマルウェルフェア (東京大学出版会)			
授業計画 毎週金曜日 4限目 15:00～16:30			
回	テーマ	授業内容	
1	動物の福祉とは	動物の権利、愛護との違い、動物の福祉の歴史と国際的な動き、5つの自由	
2	動物観の変遷と愛護運動	古代、中世、近代の西欧と日本の動物観、日本における動物福祉	
3	動物の愛護、管理の法律	狂犬病予防法の背景、アニマルウェルフェアの現況	
4	動物の愛護、管理の法律	動物愛護関連法令の変遷	
5	H A Bの認識	動物介在活動、介在療法、介在教育、健康面と心理面の配慮、I A H A I O	
6	生活の質 (Q O L) の認識	Q O Lとは何か、動物種によるQ O Lを考える	
7	病院における患者動物の福祉	獣医療の倫理、飼い主指導、ペットロス対応、患者動物の福祉	
8	動物保護施設収容動物の福祉	施設の役割、収容動物の福祉	
9	学校飼育動物福祉	適切な管理、学校と地域獣医師と動物看護師との連携	
10	動物福祉の評価指標	環境のエンリッチメント	
11	産業動物の福祉	産業動物福祉の歴史、世界の取り組み (E U、米国、日本)	
12	実験動物の福祉	実験動物とは、基本原則、飼育管理、化粧品の開発	
13	展示動物の福祉	動物園、水族館の役割、展示動物の福祉	
14	野生動物の福祉	希少種保全、野生動物による被害防除と動物福祉	